

学校名	稲美町立天満東小学校
-----	------------

1 学校運営の目標・方針

「元気に明るくともに学ぶ子」 組織目標 「真剣に学び、心と体を鍛え、たくましく生きる 東っ子の育成」 【心と体の根っこを太く深く張れる子】

2 本年度の重点目標

1. 学びの 楽しさを知り、積極的に 自分の考えを持ち 学習する子(学ぶ意欲の育成)
2. 自分から進んであいさつができ、人との対話を楽しむ子(コミュニケーション能力の育成)
3. きまりを守り、人となかよくする子(公共心と人権尊重の精神)
4. 心身の健康を保ち、元気に活動する子(心身の自己管理)

4 総合的な学校関係者評価

○目標の【心と体の根っこを太く深く張れる子】は、校長先生をはじめ、教職員の思いが込められており、興味深く毎月の学校通信『根っこ』を読ませていただいている。今後は、さらに東っ子らしさの感じられる児童に育っていくことで、一人一人がいきいきと育っていくことを期待している。 ○学習面だけでなく、生活全般についても、様々な経験や体験があり、児童たちの成長を感じる。 ○臨時休業、休業延長、分散登校を経て、通常登校が再開となった。コロナ禍で、校長先生を中心に、全教職員で子どもたちの健康を第一に、環境整備に努められた。令和2年度より、新学習指導要領が完全実施となる中、各教科のカリキュラムや学習内容の見直しなど、多くの課題があるところ、素晴らしい成果をあげられたことに感謝する。 ○取り組み状況、改善の方策から、学校と保護者が同じ理解でいることがわかった。学習面だけでなく、生活面での指導もしっかりされており、正しい言葉遣いや挨拶が自然にできるように指導されていて、とてもよい雰囲気のある学校になっていると思う。

3 学校自己評価結果 A:十分達成している。(そう思う) B:おおむね達成している。(ややそう思う)

C:どちらかというと達成されていない。(あまりそう思わない) D:ほとんど達成されていない。(そうは思わない)

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策
学校運営	学校教育目標や学校経営方針を教育活動に反映し、日々の教育活動を学校だより・学級だより・ホームページ等で分かりやすく伝えている。	A	年間を通じて、HPで行事や学習の様子を伝えている。コロナ対応の通達や行事の変更なども随時掲載し、保護者から、出先でも確認することができて助かっているというご意見をいただいている。学校通信「根っこ」には、学校経営方針や教育に関する所感などを掲載し、自治会長・老人クラブ・民生児童委員・学校評議員・町議会議員の皆様に郵送し、各地域や団体で回覧していただいている。学年・学級通信も発行し、学校・家庭・地域との連携を図っている。
	学校行事の時期や内容は適切である。	B	今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、学校行事の時期や内容の変更・中止を行った。運動会は種目を絞り、演技時間帯を学年ごとに分け、観覧者への感染防止対策を実施。学習発表会は観覧を中止し、DVDを作成し各家庭に配布した。学習形態に制限がある中での実施時期・方法、また、授業参観、家庭訪問、懇談会、PTA行事等の工夫、自然学校や修学旅行の安全な実施等、課題が明白となり、今後の在り方について検討している。
	清掃が行き届いており、美化に努め、校舎内外の物が整理整頓されている。また、定期的に施設・設備の点検をしている。	A	児童と教師が「もくもく掃除」を合言葉に、限られた時間の中であるが、丁寧に清掃活動を行っている。新型コロナウイルス感染防止対策として、児童下校後に、教室・廊下・階段・トイレ等の消毒作業を、職員が行っている。月1回の安全点検日を設定し、校舎内外の設備等の点検を行い、不具合箇所については、早急に修理や部品交換をし、安全確保に努めている。
	いじめ・不登校問題等への対応は適切で、教職員が一致協力できる生徒指導体制ができている。	B	毎日の職員打合せ時や定例の生徒指導委員会において、対応事案の指導経過や支援の必要な児童の情報を全職員で共有している。保護者へは、経過報告や対応策等を随時連絡し、丁寧な説明に努めている。また、「困りごと(いじめ)アンケート」の分析と事後指導の経過観察、Q－Uテストの分析や、道徳の授業を通して、より良い人間関係作りに取り組んでいる。教育相談日だけでなく、日頃から家庭との連絡を密にし、いじめ・不登校の早期発見・早期対応を心掛けている。
	危機管理マニュアルを作成し適切に運用している。登下校の安全について、点検・指導がされている。	A	危機管理マニュアルを作成し、非常時の教職員の任務を随時確認している。今年度は、登校時の児童の健康観察や検温カードの点検を行うため、教職員は、各門での登校指導を行い、下校後の消毒作業のため、月1回の下校指導を実施している。各学級においても、交通事故防止や危険箇所への対応、不審者対策等について、継続して指導している。
	新型コロナウイルス感染症対策を講じて、学習活動等を行っている。	A	手洗いの励行、マスクの着用はもちろんのこと、健康観察カードによる健康観察を毎日チェックしている。また、適切な温度管理等に十分留意しながら、廊下側と窓側を対角に開けることにより、効率的に換気するようにした。授業では、話し合い活動への配慮や一斉音読は控え、物の貸し借りはしないことを徹底した。給食では手洗い後、各教室で手指消毒を行い、会話を控え前向きで食べるようにしている。
教育課程	授業方法を工夫・改善し、分かりやすい授業に心がけている。	A	今年度、全職員が、「食育」と「キャリア教育」の2部会に分かれ、各教科・領域の研究授業を行った。また、各学年の教師同士が意見を出し合いながら、教材研究や教具の開発を進め、授業研究を日々行ってきた。新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」を充実させるため、今後導入される1人1端末の有効な利用法を研究し、来年度もより良い授業づくりに努めていきたい。
	評価(授業評価・学びの姿等)を通して、適切な指導をしている。	B	教師は、発言内容・振り返りシート・評価テスト・ノート点検などを通じて、児童の学習状況を総合的に把握し、評価基準に基づいて各学期ごとに評価をし、児童と保護者に伝えている。児童には、努力した点や成長した内容については褒め、今後努力が必要な点については、具体的にどのような学習行動が必要であるかを、児童の成長度合に合わせて説明し、一緒に学んでいこうと励ましながら指導している。
	子どもに家庭学習(宿題等)や学習準備等の習慣を身につけさせている。	B	全校で学習のきまりを統一し、学習に取り組む準備や心構えを、日々指導している。教師は、提出物の締め切りは守られているか、丁寧に学習に取り組んでいるかを確認し、不十分な児童については、家庭との連携を密にし、時間をかけて対応している。
	体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れている。	A	今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策と、臨時休業によるカリキュラムの変更等で、ゲストティーチャーは、例年より少なくなった。2年:「命の授業」(マナ助産院助産師)、4年:社会科での聞き取り調査(地域の店や農家等)、5・6年:情報教育講習会(兵庫県警サイバー犯罪課)、5年:福祉体験活動、6年:キャリア教育(ふるさとの先輩事業/工務店職人・雅楽演奏)、図工鑑賞指導(神戸市立博物館学芸員)※学習ボランティア:読み聞かせ(スプーンおばさん)、図書室ボランティア。各教科の授業においては、話し合い活動を取り入れ、意見や考えをお互いに出し合いながら解決策を見つける学習を行っている。今後継続していきたい。
	道徳の授業を大切にし、内容の充実に努めている。	A	教師は、単に読み物教材の登場人物の心情理解のみで終わったり、望ましいと分かっていることを言わせたり書かせたりする指導とならないように、問題を自分のこととしてとらえ、友だちと話し合いを重ね、自分の考え方や感じ方をより深めるための指導方法を工夫している。授業ごとに、児童の発言や振り返りを記録・蓄積し、児童の学習状況や成長の様子を継続的に把握することに努めている。また、いじめ問題、情報モラル、新型コロナウイルス感染者や医療従事者等に対する差別事象等について、適切な教材を選定し、授業を行っている。
	読書活動を充実させている。	A	今年度は、新型コロナウイルスの影響で、自宅で過ごす時間が増えたため、児童が本に親しむ機会が多くなった。11月17日～30日の2週間実施した「東っ子読書週間」では、1年生10冊、2年生15冊、3・4年生400ページ、5・6年生500ページの目標を設定し、243人が目標を達成した。授業では、週1回、国語の時間に、図書室で読書指導を行っている。今後も、「好きな本アンケート」等、様々な図書室の企画を紹介する図書だよりの発行などを通して、本に親しむ機会をこれからも作っていきたい。

5 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
○HPの更新が早く、写真と文章の掲載で、行事ごとに分かりやすく閲覧することができる。学校・学級通信のバックナンバーも、すぐにHP上で確認することができるのは良い。 ○臨時休業中、HPを通じて先生方からのメッセージを発信によって、学校を身近に感じる事が出来た。 ○参観の機会があまり無かったが、授業の様子がHPで紹介されていてよくわかる。学校通信が自治会を通じて回覧され、地域で子どもを育てる意識の醸成にもなっている。 ○学校の出来事をあまり話さない子もいるので、学級通信での先生からの情報は大切だと思う。 ○HPに、子どもたちが取材した、学校内や地域の様子を発信するブログ欄的な物を作って更新してはどうか。
○コロナ禍で、様々な制約がある中、安全第一で感染拡大防止対策を考え、行事を開催していただいて感謝している。 ○授業参観の分散開催や、運動会の学年ごとの開催は、子どもたちの様子がよく見え、大変良かったという声を多く聞いている。 ○今年度中止とした、「PTCAフェスティバル」の開催形態をどのようにするのが課題である。 ○行事を元通りに戻すことと並行して、新しい時代にふさわしい行事や取り組みを考えるのも良いのではないかと。例:子ども会議(討論会)のオンライン配信等
○毎日、児童下校後の消毒作業をしていただき、先生方には本当に感謝している。 ○校舎内外が、いつもきれいに掃除されている。トイレを使用する際も、気持ちよく使うことができている。 ○自分たちが生活しているところをきれいにすることが身につくよう、継続して清掃指導を行うことが大切である。ごみや汚れている場所を見つけたら、自然に体が動き、きれいにできる人になればと願っている。
○登下校中のトラブルが多いように思う。学校では早期に指導、対応していただけていると思う。 ○学校内であった小さなトラブルにも、先生の対応が早く、保護者にも連絡いただけたりと安心である。 ○個人同士のトラブルやクラス全体で起こったことが一人歩きしているように思う。普段から学校と保護者が連携を取り、やりとりしやすい環境が常にあると更に良いと思う。 ○家庭環境はそれぞれ違うので、地域と連携したきめ細かいサポートが必要である。
○登校時に、先生方が安全指導をされているのを拝見する。登下校時の通学路の車の通り抜けなど、危険な状況がある。保護者と地域の方々の協力もいただきながら、登下校時の見守りを強化したい。
○コロナ禍、児童の健康を守り、安全な学校生活を送らせるため、毎朝の健康チェックは重要な任務の一つだと思う。また、下校後の消毒作業も欠かすことのできない仕事となり、安全で安心して過ごせる環境となるよう、継続して努めていただきたい。 ○日頃の授業に加え、コロナ禍での対応は本当に大変だったように思う。先生方の消毒作業には本当に感謝しています。
○授業日数が少なくなった中でも、「分かりやすく楽しかった」と思える授業になっていると、子どもたちの様子から感じられる。 ○先生方のチームワークの良さや、授業について日々研究されていることは、参観の様子や学校通信から、よくやっておられると感じている。 ○タブレットを使用しての学習は、先生方の準備が大変だと思うが、今後の授業が楽しみである。 ○天満東小学校の特徴、稲美町の教育の特徴が欲しい。IT に強い、英語教育が充実している、運動(特別な種目)・音楽活動が盛ん等。
○子どもたちの学習状況を伝えていただき、努力し頑張った所は褒めてもらっているのも、子どもたちの自信に繋がっていると思う。達成状況がBなのは、先生によって対応が違っているからではないかと感じる。 ○個別に丁寧に対応していただくことで、児童自身、自分の評価が良く分かり、良いところを認めてもらい、自信に繋がっていく。今後の課題も見い出され、目標をもって学習に取り組めるよう、適切に指導がされている。 ○結果だけではなく、努力した点、成長した内容には褒めて、一人一人に寄り添い、成長を見守ってくれていると感じている。 ○クラスの人数が少ないので、目が行き届いているように感じる。
○下校時刻が早くなり、家庭学習に取り組む時間に余裕ができた。課題やお手伝いの習慣を身に付ける指導は継続して欲しい。 ○低学年のうちに、自発的に勉強する習慣を身に付けることが大事である。今後は、学校と家庭が、ネット環境の整備に合わせ、連絡を密にできると思う。 ○クラスによって宿題の量に差があると聞くが、多少の差は仕方ない。家庭でも対応していくべきではないかと思う。
○コロナ禍でゲストティーチャーの授業が少なくなったのは残念だが、心の成長や学ぶ意欲の育成が感じ取れる。2年生の「命の授業」は大変良いと思う。 ○地域の方々に協力していただき、有意義な体験活動ができていると思う。環境に恵まれている土地ならではの活動が、食育にもつながるのではないかと思う。 ○コロナ収束後には、ゲストティーチャー授業の再開を願う。話を聞くことで、今まで知らなかったことが、話を聞くことで知る事ができ、体験することで視野を広く持てるようになる。 ○子どもは、自分の考えに自信がない時はなかなか言い出しにくい、思いを出すことが大事。聞く側が、相手の意見を最後まで聞くという姿勢があると話しやすいかもしれない。
○問題を自分のこととしてとらえることを重点に行われていることにより、話し合いも一歩深く考えられるようになると思う。正しいことは分かっている、それを行動に移していくことがうまくできず、トラブルになったり人を傷つけてしまう。善悪の判断は、実際に体験を重ねることで身につけていくと思う。 ○担任の先生と他の先生が代わって、授業をするのも、子どもたちには良い刺激になっていると思う。 ○道徳の授業は大切であるが、評価するのは難しいと思う。
○自宅で過ごす時間が多くなり、読書の時間が増えた。図書室の本を進んで読みたいという気持ちになっている。図書だよりの「好きな本アンケート」は、次に読みたい本の目安になっている。 ○学校の図書室の積極的な利用と、校区内にある稲美町立図書館の利用を推進することで、地域の施設の充実と、読書活動が図れるのではないかと。 ○毎日10分でもよいので、読書の時間をとり、習慣づけをすると良い。

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策
課題教育	生命の大切さ、共に生きる豊かな心の育成に努め、地域の人々との関わりを通して、実践的な力を培っている。	B	特別の教科 道徳や人権教育を中心に、全ての教育活動を通して、生命の大切さや人権尊重の心を育てている。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、PTCAフェスティバル(11月)、まちづくり東の交流スポーツ大会(11月)、十七丁自治会主催のふれあい収穫祭(大根祭り)(12月)、子ども会主催の各種行事等が中止となってしまった。保護者や地域の方とともに体験する行事は、児童にとっては貴重な機会であるので、来年度は、新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら、感染防止対策を講じて実施できる方法を考えていきたい。
	環境体験学習・自然学校等で体験活動を充実させている。	A	環境体験学習(3年生)は、天満大池でのアサザ保護活動への参加や、県立人と自然の博物館(三田市)見学、自然学校(5年生)は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、8/27(グリーンエコー笠形/登山・アマゴ掴み)、11/19(嬉野台生涯教育センター/冒険教育)、11/20(稲美中央公園野外活動センター/ピザづくり・藍染体験、天満東小運動場/キャンプファイヤー)の3日間プログラムで実施した。郷土の自然を大切にする心や、自然の中で友だちと協力しながらの体験活動は、新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら、実施していきたい。
	計画的に避難訓練等を実施している。	A	火災(6月)・不審者侵入(11月)・地震(1月)の3回、避難訓練を実施している。地震発生を想定した訓練は、実施日時を教師や児童に知らせず実施したが(シークレット訓練)、児童は放送をしっかり聞き、教師の指示に従って避難することができた。『声に耳を傾ける』ことの大切さが、徐々に身について来ている。
	外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成している。	B	今年度は、稲美中学校校区に英語専科教諭(天満東小・天満南小・母里小の3校兼務)が配置され、3・4年生は外国語活動(35時間)、5・6年生は教科としての外国語(70時間)の授業を行っている。専科・ALT・担任が連携して授業を進めることにより、中学年では「聞くこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」を中心とした活動を通して外国語に慣れ親しみ、高学年では「読むこと」「書くこと」を加えて、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育てている。また、世界の言語や風習、料理等の学習を通して、お互いの文化を理解し尊重する態度も育てている。
努力目標	学校は、授業や体験学習を通して、自ら学ぶ意欲を持って、学ぼうとする児童を育てようとしている。	A	児童には、毎時間、授業のはじめにその時間の目標を提示し、終わりには、学びの振り返りをさせることにより、目標が達成できたかどうかを確かめさせている。教師は、導入されたタブレットパソコンも積極的に利用しながら、「わかった、できた」という学びの充実感を味わわせる授業づくりを進めている。昨年評価の低かった、児童の「わからないところは先生にたずねてわかるようにしている」「実際にやってみたり、友だちと話し合って問題を考えたりする学習をしている。」「やる気を持って自分から進んで学習や活動に取り組んでいる。」「自分の思いを他の人に話したり書いたりして伝えることができている。」の評価は改善され、学習意欲の向上がみられた。
	学校は、学校や家庭、地域で自分からすすんであいさつができる子を育てようとしている。	A	従来より、「めざせ挨拶日本一」を合言葉に、自分から進んで挨拶ができる子の育成に力を注いできた。児童には、①挨拶は、「相手の目を見てからお辞儀をして、相手に伝わる適切な大きさの声で」すること②挨拶は、「いつでもどこでも誰にでも自分から」することが大切であることを伝えており、登校時に、気持ちの良い挨拶ができる児童がだんだんと増えて来た。また、校舎内外ですれ違った時の「こんにちは」という声も、よく聞こえてくるようになった。しかしながら、地域での挨拶ができていないという声もいただいております、家庭・地域と連携して取り組んでいきたい。
	学校は、友だちときまりを守り、仲良く協力できる子を育てようとしている。	A	児童は、「東っ子のきまり」をしっかり守っている。小さなトラブルはあるが、間を置かず、その都度、生徒指導担当と担任が連携し、事実確認と謝罪をさせ、事後経過観察を行っている。関係児童の保護者へは詳細を連絡し、事案によっては、直接保護者に会い、児童への声掛けと見守りをお願いしている。
	学校は、体育・保健学習や食育を通して、自分の体や心を大切にしようとする心を育てようとしている。	A	今年度は、「コミュニケーション能力を高め、主体的に学び合う授業づくり～『食』の根っこを育てる、持続可能な食育をめざして～」を研究テーマとした。各教科・特別活動・総合的な学習の授業に「食育」の観点を取り入れてカリキュラムを編成し、児童が、食の大切さ・ありがたさを実感できるよう、＜食育の6つの視点＞を評価基準として授業を行った。担任と栄養教諭が授業を行い、6年生が考えた給食メニューを実際に提供することができた(2月)。各学年の実践内容については、今年度『食育通信』を発行し、家庭との連携を進めた。体育では、リズムジャンプを導入し、基本的な体力の向上と体づくりを図っている。保健では、体の発育・心の健康、けが・交通事故の防止、病気の予防、喫煙・飲酒・薬物乱用等を学習し、健全な心身の育成を図っている。
自己評価における特記事項	学校は、話したり書いたりすることを通して、自分の思いを相手にしっかりと伝えられる子を育てようとしている。	A	『主体的・対話的で深い学び』を実現するために、各教科の学習においては、児童が、自分の思いや意見をまとめ、恥ずかしがらず失敗を恐れず、グループで意見交換をしたり、みんなの前で学習成果を発表する機会を多く設定している。また、朝の会・終わりの会では、「1分間スピーチ」や当番活動の司会を通して、自分の思いを、短くわかりやすく相手に伝える技術を育てている。このような活動を低学年から積み重ねることによって、声の大きさや話すスピード、使う言葉の選び方に気を付けて話せるようになってきた児童がだんだんと増えてきている。

自己評価における特記事項

○ 本年度の重点目標として、1. 学びの 楽しさを知り、積極的に 自分の考えを持ち 学習する子(学ぶ意欲の育成)
2. 自分から進んであいさつができ、人との対話を楽しむ子(コミュニケーション能力の育成) 3. きまりを守り、人となかよくする子(公共心と人権尊重の精神) 4. 心身の健康を保ち、元気に活動する子(心身の自己管理)の4点を掲げた。臨時休業期間の延長や夏季休業日の短縮などで、児童にとっては心身とも大きな負担となった1年間であったが、保護者や地域の方々のご理解・ご協力のお陰で、 コロナ禍での教育活動を進めることができた。 ○ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、県教委・町教委の方針の下、学習カリキュラムの組み換えや、学校行事の中止や延期、内容の変更を行った。運動会や授業参観では、参観可能時間帯を学年や地区単位で限定し、参加者数も制限した。結果的には、「子どもたちの演技や学習の様子をしっかりと見ることが出来た」と好評であった。入学式や卒業式、自然学校や修学旅行を含め、今年を契機に、これまで当然のように行ってきた学習方法や行事のあり方を見直し、子どもたちにとって、より有意義な教育活動の進め方を考える必要性を実感している。 ○登校時の「おはようございます」から始まり、校内で教師とすれ違う時の「こんにちは」、お客様への「こんにちは」、下校時の「さようなら」まで、その場に適した声の大きさと笑顔で会釈をして挨拶ができる児童が、昨年に比べて大変多くなった。地域ではまだまだできていないという声もいただいておりますので、児童には、『いつでも・どこでも・誰にでも・自分から』挨拶しようと、これまで同様、伝えていきたい。

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
OPTCAフェスティバルは、様々な形態での開催を検討したが、残念ながら中止とした。PTCA活動は、子ども・保護者にとって、地域の方々と一緒に体験交流する大切な行事と考えている。今後は飲食や販売をしなくても、団体との交流や地域とのふれあいが出来る内容での開催を検討している。 ○保護者、地域の方、幼稚園の子どもたちとの異世代交流も大切なので、対策を練り、来年は継続したい。 ○今年度は各種行事が軒並み中止となってしまう、残念だった。学校行事が考慮しながら開催されたように、難しいとは思いますが、実施できる方向になればと思う。
○自然学校は、縮小となってしまったが、中止にならず実施されたことは良かったと思う。 ○様々な体験・見学・協力し合って達成した喜びは、人生の糧になると思う。今後も、コロナ禍での対応が必要となるが、大切にしてほしい時間だと思う。 ○体験学習では、稲美町の環境について学習し、稲美町の施設での野外活動、県内施設の利用により、様々な体験が充実している。自然学校では、宿泊は出来なかったが、思い出に残る貴重な経験となっていることと思う。 ○小学校での体験学習や自然学校などでの、友だちや先生との体験はとても大切な思い出になる。安全対策をする中での実施を、今後お願いしたい。
○防災学習について、学ぶ機会が多くあり、子どもたちも興味を持って聞いてくるようになった。親にとっても、見直す良い機会になったと思う。○災害の少ない地域ではあるが、避難訓練などは積極的に取り組んだ方が良い。 ○シークレット訓練は、良い取り組みだと思う。子どもたちが取り乱すことなく訓練が出来たことは、日頃の信頼関係が築かれている証拠であり、実際の避難の際にも成果を発揮できることであろう。
○稲美町では、外国人教師による生の英語に触れる機会が長年続けられていることを土台に、さらに英語が身についていくよう、期待している。○早い段階で英語に親しむことは良いことだと思う。英語が好きになるような授業内容を取り入れて、英語に興味を持たせてほしい。 ○外国語を日常的なものとなるような取り組みが出来ていると思う。全学年通して、覚えている単語で会話ができる機会があると、楽しみが増えるような気がする。 ○小学校からの外国語授業は素晴らしい。可能なら、様々な国の人と出会い、文化交流ができると、人種差別等の理解も深まるのではないかと。
○タブレットが導入され、どのように活用して授業が行われているのか、もっと知らせてほしい。 ○読書ビンゴ、百マス計算、数独、パズルなど、コツコツ楽しくできることを、うまく取り入れてはどうか。 ○授業の内容や指導について、教師間で研修され、分りやすく、学びの充実が味わえる授業づくりに取り組まれている。児童の学習意欲の向上が見られることは、本当に素晴らしいと思う。子どもたちが、少しでもわかることが増えることで、学習意欲に繋がっていくことを願っている。
○年々、子ども達からの挨拶が増えてきつつあるように感じる。下校時にも休日にも、挨拶をしてくれることがある。自分から進んで挨拶できるように、みんな頑張っているように思う。 OPTAの「朝の挨拶運動」を通し、登校時の子どもたちが、しっかり相手の目を見て挨拶を元気にしてくれることに驚いた。今後も「目指せあいさつ日本一」を合言葉に、取り組んでいきたい。 ○挨拶などの基本的生活習慣を身に付けることは、人間としてとても大切なことである。本来は、家庭で身に付けなければならないことを、学校で習慣化させ、自然にできるよう定着させてもらっている。地域では、大人が率先して挨拶をするようにならなければならない。地域では、大人がよくできていると思う。地域でも、子どもたちが大きな声で挨拶をしてくれて、嬉しく思う。 ○挨拶は、子どもだけでなく、地域全体・町全体で取り組んでほしい。
○トラブルには間を置かず、迅速な対応が取られていると思う。 ○小さなトラブルは絶えないと思うが、大小に関わらず、その都度適切な対応をしていただくことで、良い結果が出ていると思う。 ○子どもは年齢を重ねるほど、人間関係が複雑になり、意思疎通がうまくいかなくなる時がある。子ども同士では解決できない時は、早期の事実確認と事後の見守りをお願いしたい。 ○コロナ禍で地域の人と疎遠にならないよう、保護者が子どもたちに適切な声掛けをして見守ることが重要だと思う。
○周囲に自然がまだまだ残っている環境なので、食育をどんどん実施して欲しい。 ○食育を通して、6年生が考えたメニューが、実際に給食として出されたのは、誇らしく、大変貴重な経験となったであろう。 ○給食のお陰で、子どもの好き嫌いが克服できたものもある。地産地消で、食のありがたさや大切さを感じることが出来ていると思う。 ○「食の根っこを育てる食育の実践」は、素晴らしい取り組みで、子どもたちも、自分が食べている物への関心が、食べ物や生産者、給食を作った人への感謝に繋がりが良い教育となっていると思う。 ○体育のリズムジャンプは、どの学年も楽しそうに取り組んでいた。運動会の縄跳びも、個人に合わせた演技となっており、一生懸命さに感動した。 ○保健の授業に薬物乱用の怖さを知る内容があることで、正しく理解し、安易に手を出さないことに繋がってくれればと願う。
○自分の思いを他の人に伝えることは、大人でも難しいと感じるので、スピーチは良いと思う。たくさん練習させて、継続して話す機会を増やし、取り組みを続けて欲しい。 ○授業参観では、たくさんの子どものリズムよく意見を出し合い、それを楽しめているような授業になっていると思った。失敗を恐れることなく、力を発揮できる教育をさせていて、とても良いと思う。 ○思いを相手に伝えるためには、何を話すかを考えたり、自分の考えをまとめたり、相手にわかってもらえるにはどのように話すかなど、いろいろな準備が必要である。小学生のうちから、人前で話すことを経験していくことは、将来にとって、大きな力になることと思う。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

○ 今後も、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を取りながら、教育活動を進めていかなければならない。衛生管理マニュアルに基づき、児童の生命を守ることを第一に考え、教育活動や学校行事を進めていく。その際、保護者や地域と情報を正しく共有することが大切であり、学校から、適時情報を伝えるとともに、これまで以上に、PTAや各種団体との連絡・連携をしていく。 ○ GIGAスクール構想により、児童1人1台のタブレットが配備された。学校・家庭での学習を有効なものにするために、教職員で活用方法を検討・研修を進める。保護者へは、家庭での使用方法やお願い事項について、丁寧に説明し、児童とともに学ぶ時間を作っていただくよう、協力をお願いしていきたい。 ○「食育」「キャリア教育」については、来年度も研究を進め、成果や課題を発信・発表する機会を設定し、児童のよりよい成長・学びに繋げていきたい。